

# 京都民医連中央病院 緩和ケア病棟で診療を受けられた皆様へ：

## 診療情報の研究利用のお知らせ

当院では、本院病院長の許可のもと以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	終末期がん患者の日常生活動作障害の出現時期と生存期間に関する考察 一年齢層別の比較検討一		
② 実施予定期間	倫理審査委員会承認後 から 2024 年 6 月 15 日		
③ 対象患者	④の対象期間中に当院緩和ケア病棟で診療を受け、お亡くなりになった患者さん		
④ 対象期間	2019 年 11 月 1 日 から 2022 年 7 月 31 日		
⑤ 研究機関の名称	京都民医連中央病院		
⑥ 対象診療科	緩和ケア内科		
⑦ 研究責任者	氏名	加藤 直子	所属 京都民医連中央病院
⑧ 使用する試料・情報等	診療記録（カルテ）を元に、性別、年齢、診断名、日常生活動作障害の発生時期、日常生活動作障害の要因、入院期間などの情報を使用します。得られた情報は研究発表後5年で破棄します。		
⑨ 研究の概要	<p>がん患者さんは、状態が悪化し始めてから死に至るまで、急速な経過をたどることが多いと言われていています。そのため、残された生において望ましいと思う過ごし方について、ご家族や医療者などと話し合うことが不十分なまま緩和ケア病棟に入院される患者さんが多いのが現状です。</p> <p>一般的に死亡前2週間頃から自力移動の障害の頻度が高くなり始め、死亡数日前より水分摂取、会話、応答の障害が急増すると報告されています。緩和ケア病棟では、30歳代～100歳代と幅広い年代のがん患者さんが入院します。その中で、高齢期にある患者さんは、穏やかな経過で障害されるため、患者さんやご家族と時間をかけて関わる事ができていますが、高齢期までの患者さんは急激にADLが障害され、亡くなるまでの日数も短く、患者さんやご家族に対し十分な緩和ケアの実践ができていないと感じることがあります。</p> <p>そこで、実際に年齢層別でADLの障害の出現時期と生存期間に相違があるのか明らかにし、その結果からどんなケアが必要になるのか考えていきたいと思ひます。</p> <p>研究の目的 年齢層別でADLの自立レベルの行動ができなくなった日に相違があることが明らかになることで、将来起こりうるADL低下を予測して関わるこ</p>		

	<p>とができます。そして、最期を過ごしたい場所、共に過ごしたい人など患者さんの意向に沿った医療やケアの実践、患者さんの価値観や生き方を反映したケアの実践に繋がると考えます。</p> <p>研究方法</p> <p>緩和ケア病棟で亡くなられた患者さんについて、性別、年齢、診断名、入院期間、日常生活動作（移動、排泄、水分・食事摂取、会話・応答）の障害発生時期などの項目をカルテ内から情報収集し、年齢別の比較検討を行います。</p>			
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2023 年 7 月 28 日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	<p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。</p> <p>詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。</p>			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	京都民医連中央病院に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	ありません			
⑯ 利益相反	ありません			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	京都民医連中央病院 緩和ケア内科 担当者：加藤 直子			
	電話	075-861-2220	FAX	075-882-5781